

新型コロナウイルス感染症に係る市主催のイベント等の開催基準

(1) 基本的な考え方

多数の方が集まる市主催のイベント等は、感染リスクが高いものとして、原則、中止・延期とする。ただし、やむをえず開催する場合は、(2)の感染防止対策を徹底の上、実施するものとする。

なお、参加者が特定できるものについても、原則、中止・延期を検討の上、やむをえず開催する場合は、参加者への注意喚起を十分に行い、感染防止対策を徹底の上、開催することができることとしており、適切に実施されたい。

(2) 開催する場合の感染防止対策

市主催のイベント等については、次の項目など取りうる限りの感染防止対策を徹底することとします。(別添 【多くの人が参加する場での感染対策のあり方の例】)

- ・ 参加者へ手洗いの推奨を行うこと
- ・ 会場にアルコール消毒液を設置すること
- ・ 発熱や咳等の風邪症状がみられる方には参加自粛を協力要請すること
- ・ 高齢の方や基礎疾患をお持ちの方で、感染リスクを心配される方には参加自粛を協力要請すること
- ・ これまで集団感染が確認された場に共通するのは、①換気の悪い密閉空間であったこと、②多くの人が密集していたこと、③近距離（互いに手を伸ばしたら届く距離）での会話や発声が行われたという3つの条件が同時に重なった場とされているため、このような会場環境とならないように留意すること。

これらの対策が十分に担保できない多数の方が集まる市主催のイベント等は、当面、5月10日（日）まで中止または延期とします。

(3) 公共施設の利用について

公共施設の利用については、上記(1)の基本的な考え方に基づくものとし、イベント以外の利用においても上記(2)の感染防止対策の徹底を利用の条件とする。

なお、各市民センター、各公民館、学校体育館等、については、4月9日（木）から5月10日（日）まで原則として貸し出しを中止するものとする。

(4) 留意事項

当開催基準は、市が共催・後援する事業についても、主催者に同様の取り扱いを要請するものとし、新型コロナウイルス感染症の今後の感染の広がりなどを見ながら適宜見直すこととします。

別添 【多くの人が参加する場での感染対策のあり方の例】

- 1) 人が集まる場の前後も含めた適切な感染予防対策の実施
 - 参加時に体温の測定ならびに症状の有無を確認し、具合の悪い方は参加を認めない。
 - 過去2週間以内に発熱や感冒症状で受診や服薬等をした方は参加しない。
 - 感染拡大している地域や国への訪問歴が14日以内にある方は参加しない。
 - 体調不良の方が参加しないように、キャンセル代などについて配慮をする。
 - 発熱者や具合の悪い方が特定された場合には、接触感染のおそれのある場所や接触した可能性のある者等に対して、適切な感染予防対策を行う。
 - 会場に入る際の手洗いの実施ならびに、イベントの途中においても適宜手洗いができるような場の確保。
 - 主に参加者の手が触れる場所をアルコールや次亜塩素酸ナトリウムを含有したもので拭き取りを定期的に行う。
 - 飛沫感染等を防ぐための徹底した対策を行う（例えば、「手が届く範囲以上の距離を保つ」、「声を出す機会を最小限にする」、「咳エチケットに準じて声を出す機会が多い場面はマスクを着用させる」など）
- 2) クラスタ（集団）感染発生リスクの高い状況の回避
 - 換気の悪い密閉空間にしないよう、換気設備の適切な運転・点検を実施する。定期的に外気を取り入れる換気を実施する。
 - 人を密集させない環境を整備。会場に入る定員をいつもより少なく定め、入退場に時間差を設けるなど動線を工夫する。
 - 大きな発声をさせない環境づくり（声援などは控える）
 - 共有物の適正な管理又は消毒の徹底等
- 3) 感染が発生した場合の参加者への確実な連絡と行政機関による調査への協力
 - 人が集まる場に参加した者の中に感染者がでた場合には、その他の参加者に対して連絡をとり、症状の確認、場合によっては保健所などの公的機関に連絡がとれる体制を確保する。
 - 参加した個人は、保健所などの聞き取りに協力する、また濃厚接触者となった場合には、接触してから2週間を目安に自宅待機の要請が行われる可能性がある。
- 4) その他
 - 食事の提供は、大皿などでの取り分けは避け、パッケージされた軽食を個別に提供する等の工夫をする。
 - 終了後の懇親会は、開催しない・させないようにする。

※ 上記は例であり、様々な工夫が考えられる。